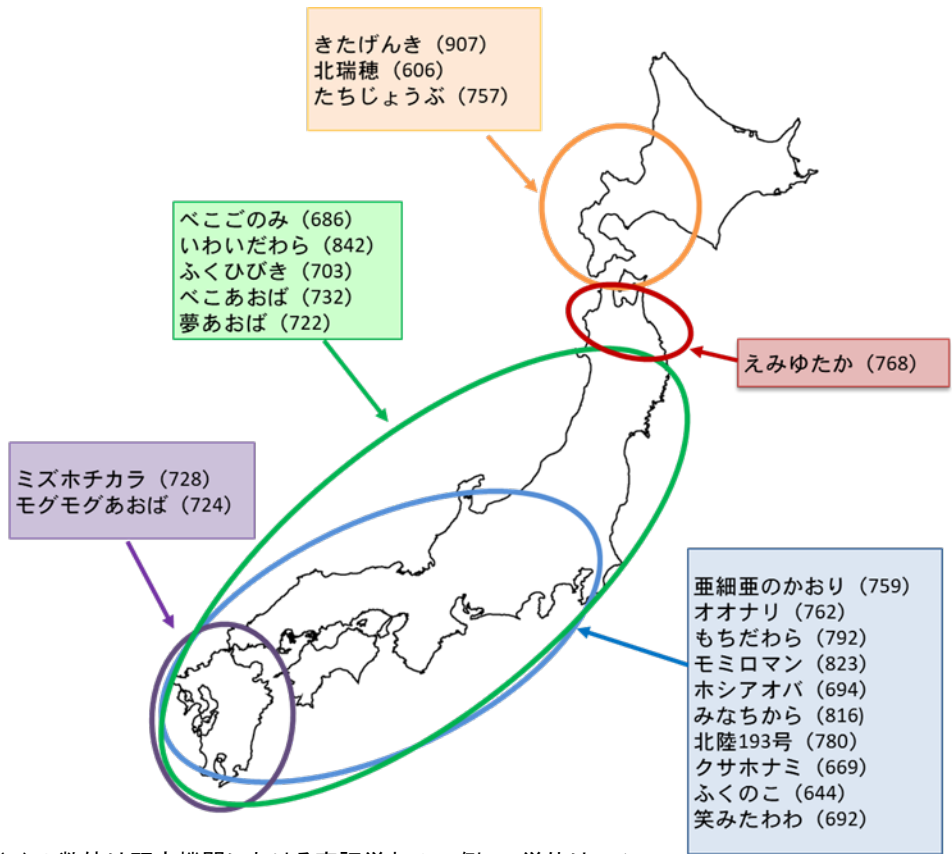


多収品種について

- 多収品種については、現在、「需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領」において、以下の2区分が設けられている。
- ① 国の委託試験等によって、飼料等向けとして育成され、子実の収量が多いことが確認された21品種（多収品種）
 - ② 一般的な品種と比べて子実の収量が多く、当該都道府県内で主に主食用以外の用途向けとして生産されているもので、全国的にも主要な主食用品種ではないもののうち、知事の申請に基づき地方農政局長等が認定した品種（特認品種）

多収品種



主な特認品種の例(令和4年産)

県名	品種名
北海道	そらゆたか(710)
青森県	ゆたかまる(811)
岩手県	つぶゆたか(672)、つぶみのり(687)、たわわっこ(739)
秋田県	秋田63号(725)、たわわっこ(717)
福島県	たちすがた(599)、アキヒカリ(827)
長野県	ふくおこし(870)
新潟県	新潟次郎(669)、アキヒカリ(709)、亀の蔵(645)、ゆきみのり(681)、いただき(689)、ゆきみらい(653)
富山県	やまだわら(718)
兵庫県	兵庫牛若丸(615)、あきだわら(563)
島根県	みほひかり(546)
福岡県	タチアオバ(660)、ツクシホマレ(578)、夢一献(575)
宮崎県	タチアオバ(660)、み系358号(702)、宮崎52号(620)

[注]()の数値は研究機関における実証単収の一例で、単位はkg/10a

飼料用米の取組状況

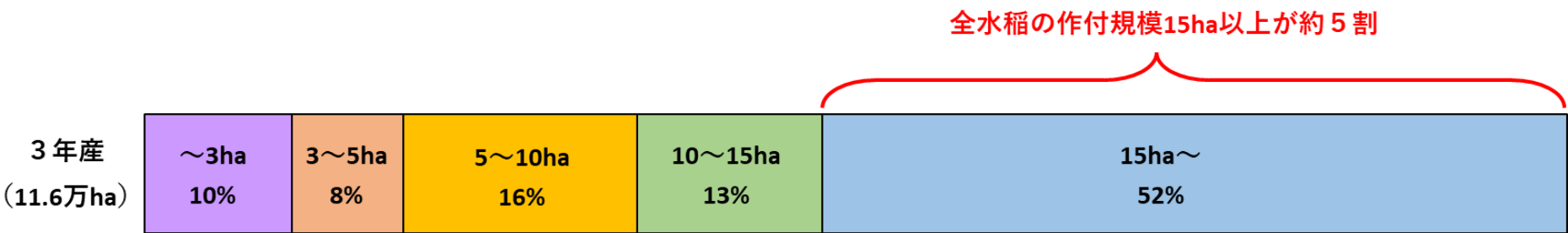
- 飼料用米作付面積はR3年度からR4年度にかけて2.6万ha拡大し、過去最高の14.2万haとなった。近年、多収品種の導入や区分管理での取組による本作化が進展してきたが、R4年度は、多収品種の取組の拡大は、2.6万haの拡大のうち0.6万haに止まり、一般品種の増加が顕著であった。
- また、飼料用米の生産の約5割が経営規模（全水稻の作付面積）が15ha以上の大規模農家により担われている。

【飼料用米の作付・生産状況】

	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
飼料用米作付面積（万ha）	8.0	9.1	9.2	8.0	7.3	7.1	11.6	14.2
うち、多収品種の作付面積（万ha）	3.0	3.9	4.6	4.5	4.3	4.0	4.6	5.2
割 合	37%	43%	50%	56%	60%	56%	39%	37%
うち、区分管理の取組面積（万ha）	6.0	7.3	7.6	7.0	6.5	6.3	9.1	11.3
割 合	75%	80%	83%	88%	89%	89%	78%	80%
飼料用米生産量（万トン）	44	51	50	43	39	38	66	—

注：「区分管理」とは、主食用米を生産する圃場とは異なるほ場で飼料用米のみを作付ける手法で、主食用米と同一のほ場で飼料用米を生産する「一括管理」と比べて、多収品種の導入が容易で、飼料用米の定着が期待できる。
「飼料用米生産量」は、実際の収量を反映した実績値。

【飼料用米作付における、農業者の規模別（全水稻の作付面積）の飼料用米の分布状況】



令和4年産飼料用米の出荷方式、品種別面積

単位: ha

	作付 面積	出荷方式別面積				飼料用米の品種別面積			
		一括 管理	割合	区分 管理	割合	一般 品種	割合	多収 品種	割合
北海道	7,094	946	13%	6,148	87%	2,595	37%	4,499	63%
青 森	9,085	196	2%	8,889	98%	3,595	40%	5,490	60%
岩 手	5,830	443	8%	5,388	92%	1,343	23%	4,487	77%
宮 城	10,416	1,194	11%	9,221	89%	9,400	90%	1,016	10%
秋 田	5,279	2,056	39%	3,223	61%	3,737	71%	1,543	29%
山 形	5,236	1,092	21%	4,144	79%	1,622	31%	3,614	69%
福 島	12,631	4,495	36%	8,136	64%	10,240	81%	2,391	19%
茨 城	14,375	1,901	13%	12,474	87%	10,920	76%	3,455	24%
栃 木	15,716	116	1%	15,599	99%	15,359	98%	356	2%
群 馬	1,575	461	29%	1,114	71%	1,493	95%	82	5%
埼 玉	3,771	1,858	49%	1,913	51%	3,239	86%	532	14%
千 葉	10,706	4,554	43%	6,152	57%	6,319	59%	4,388	41%
東 京	0								
神奈川	11	11	96%	0	4%	11	96%	0	4%
新 潟	4,578	1,947	43%	2,630	57%	2,682	59%	1,896	41%
富 山	2,149	210	10%	1,938	90%	1,239	58%	910	42%
石 川	1,767	743	42%	1,024	58%	1,454	82%	313	18%
福 井	2,078	300	14%	1,778	86%	965	46%	1,114	54%
山 梨	21	4	20%	17	80%	13	62%	8	38%
長 野	512	284	55%	229	45%	315	61%	197	39%
岐 阜	3,712	1,899	51%	1,813	49%	2,717	73%	995	27%
静 岡	1,191	5	0%	1,186	100%	432	36%	759	64%
愛 知	2,450	1,724	70%	727	30%	2,210	90%	240	10%
三 重	2,497	220	9%	2,277	91%	1,370	55%	1,127	45%

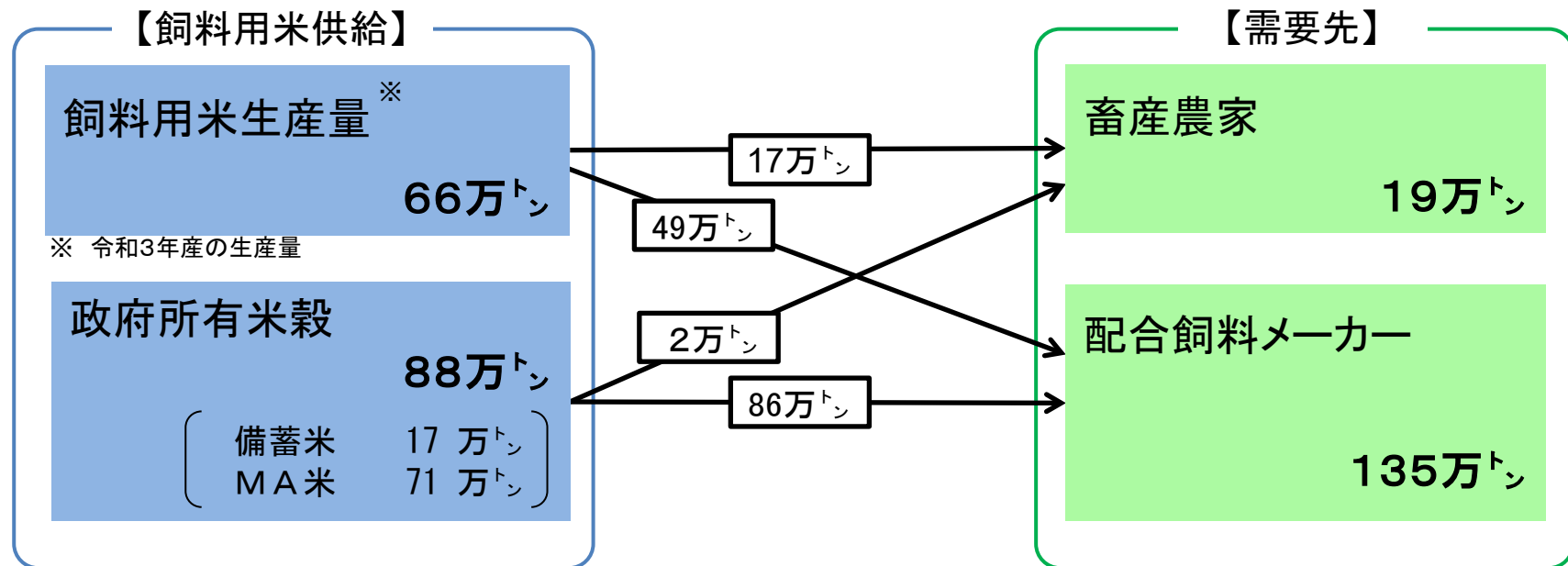
	作付 面積	出荷方式別面積				飼料用米の品種別面積			
		一括 管理	割合	区分 管理	割合	一般 品種	割合	多収 品種	割合
滋 賀	2,090	366	18%	1,724	82%	1,406	67%	684	33%
京 都	140	0	0%	140	100%	53	38%	87	62%
大 阪	6	6	100%	0	0%	6	100%	0	0%
兵 庫	761	8	1%	753	99%	268	35%	492	65%
奈 良	64	15	24%	48	76%	52	81%	12	19%
和歌山	3	1	37%	2	63%	1	37%	2	63%
鳥 取	837	0	0%	837	100%	19	2%	818	98%
島 根	866	5	1%	862	99%	73	8%	793	92%
岡 山	2,002	950	47%	1,052	53%	1,392	70%	609	30%
広 島	518	20	4%	498	96%	189	36%	330	64%
山 口	1,109	0	0%	1,109	100%	322	29%	787	71%
徳 島	1,017	614	60%	402	40%	682	67%	335	33%
香 川	162	34	21%	128	79%	74	46%	88	54%
愛 媛	299	69	23%	230	77%	100	33%	199	67%
高 知	1,079	151	14%	928	86%	726	67%	353	33%
福 岡	2,482	0	0%	2,482	100%	2	0%	2,480	100%
佐 賀	821	0	0%	821	100%	129	16%	693	84%
長 崎	121	8	7%	113	93%	66	55%	55	45%
熊 本	1,672	62	4%	1,610	96%	282	17%	1,391	83%
大 分	1,802	1	0%	1,801	100%	245	14%	1,557	86%
宮 崎	687	11	2%	677	98%	162	24%	526	76%
鹿児島	835	136	16%	699	84%	477	57%	358	43%
沖 縄	1	1	100%	0	0%	1	100%	0	0%
合 計	142,055	29,118	20%	112,936	80%	89,996	63%	52,059	37%

注 1：東京都及び沖縄県では飼料用米の作付けはない。
注 2：「一括管理」とは主食用米と同一のほ場で飼料用米を生産する管理方法であり、「区分管理」とは主食用米を生産するほ場とは異なるほ場で飼料用米のみを作付ける管理方法である。
注 3：「多収品種」とは「国の委託試験等によって育成され、一般品種と比べ子実の収量が多いことが確認された品種」及び「一般的な品種と比べて子実の収量が多く、当該都道府県内で主に主食用以外の用途向けとして生産されているもので、全国的にも主要な主食用品種でないもののうち、知事の申請に基づき地方農政局長等が認定した品種」である。

飼料用米の供給状況

- 現状、飼料用に154万トンの米が畜産農家・配合飼料メーカーに供給されているところ。

米の飼料用としての供給量(令和3年度)



出典:農林水産省穀物課調べ

【今後の課題】

- 配合飼料の主原料であるとうもろこしと同等、またはそれ以下の価格での供給が必要。
- 飼料工場毎の施設規模や配合設計・計画に見合う安定的な供給が必要。(短期・大量の受け入れは不可)
- その他、飼料用米の集荷・流通・保管施設や直接供給体制の構築等の集荷・調製等に伴うコスト削減等の体制整備が必要。

配合飼料メーカーの立地状況と飼料用米の集荷・流通体制

- 飼料用米の産地は全国に存在するが、配合飼料工場は、主に、太平洋側の港湾地域に立地が集中。
- 飼料用米については、生産者団体による飼料用米の集荷・流通体制が確立されていることから、稲作農家自らが需要先の確保や配合飼料工場への供給に携わらずとも、飼料用米の生産に取り組むことが可能。

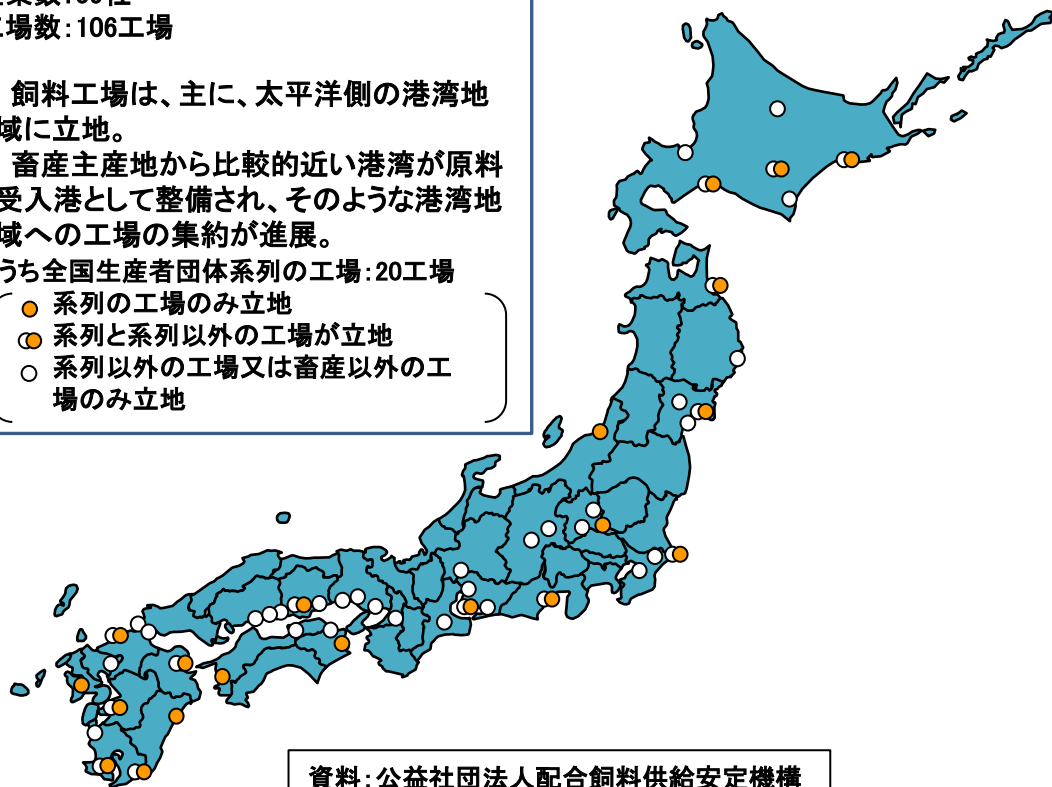
配合飼料工場の立地状況※1

企業数:59社
工場数:106工場

- ・ 飼料工場は、主に、太平洋側の港湾地域に立地。
- ・ 畜産主産地から比較的近い港湾が原料受入港として整備され、そのような港湾地域への工場の集約が進展。

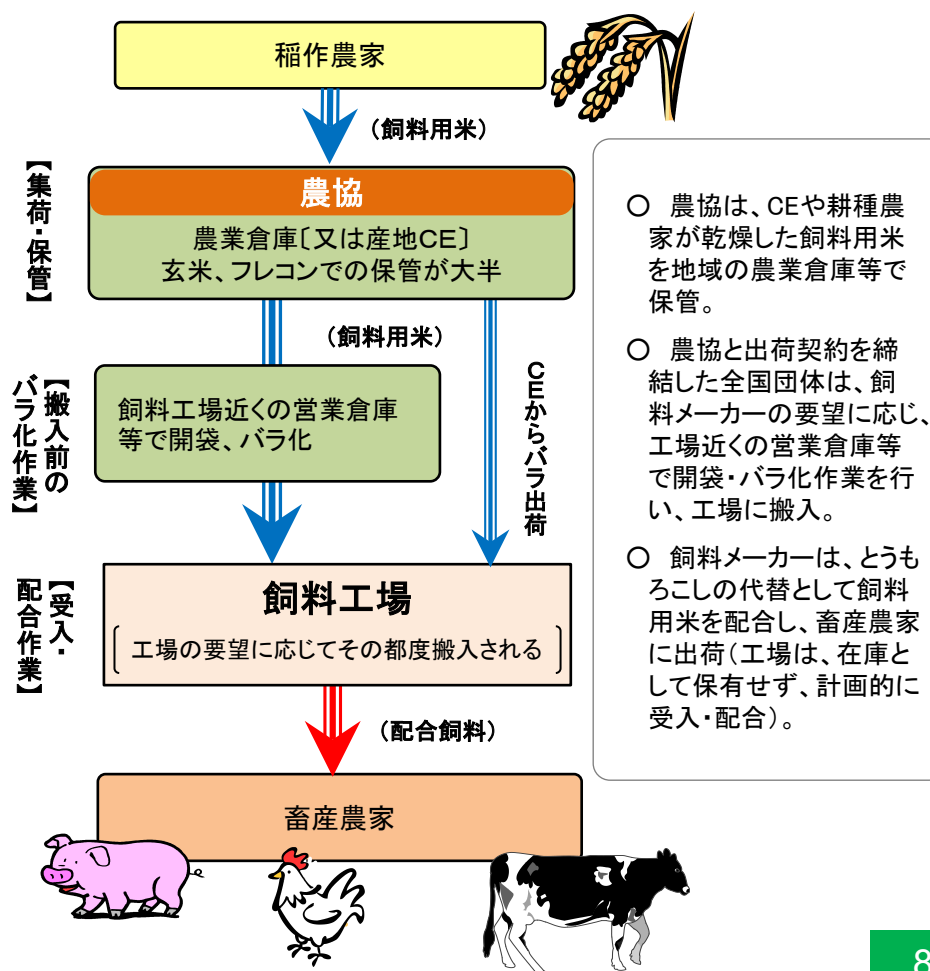
うち全国生産者団体系列の工場:20工場

- 系列の工場のみ立地
- 系列と系列以外の工場が立地
- 系列以外の工場又は畜産以外の工場のみ立地



資料:公益社団法人配合飼料供給安定機構
「配合飼料産業調査」を基に作成
※1 本調査に協力を得られた承認工場及び承認工場を有する企業を対象としている

全国生産者団体による飼料用米の集荷・流通体制

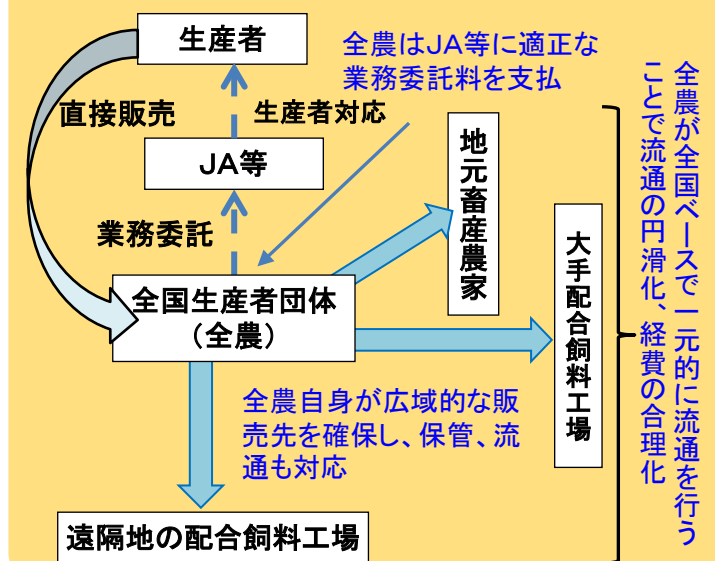


(参考) 飼料用米の流通経費について(全国生産者団体による集荷・流通の場合)

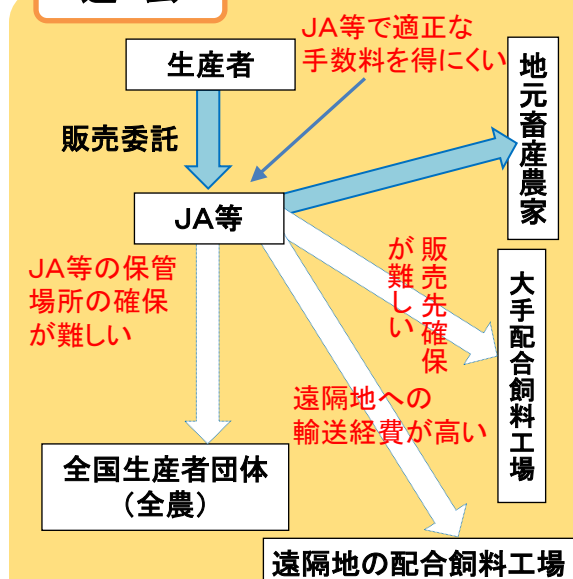
- 全国生産者団体(全農)は、飼料用米を生産者から直接買い取り、自ら保管・流通・販売する仕組みを創設し、運用している。
- 全農に出荷された米の輸送経費は、基本的には輸送距離に応じて高くなるが、契約した運送業者等における帰り荷の有無等も影響するため、輸送距離のみによって決まるものではない。
- 流通経費は、一般的に金利・倉敷料や販売手数料等の他の経費と合わせて計算され、生産者が受け取る販売代金から差し引くことで精算されている。

全農による飼料用米の直接買取りスキーム

現在



過去

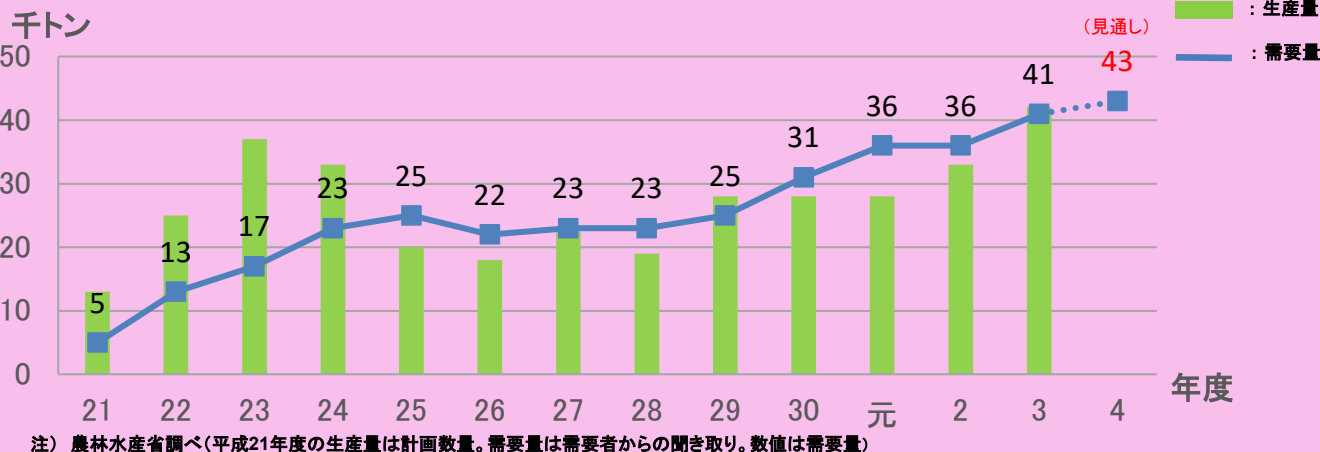


※ 農林水産省では、全国生産者団体(全農)が創設した仕組みの運用を可能とするため、「米穀の出荷販売業者が遵守すべき事項を定める省令」(平成21年11月5日農林水産省令第63号)を一部改正(平成26年11月公布、平成27年2月施行)

米粉用米の状況

- 米粉用米の需要量は、平成29年度までは2万トン程度で推移。米粉の特徴を活かし、グルテンを含まない特性を発信する「ノングルテン米粉第三者認証制度」や「米粉の用途別基準」の運用を平成30年から開始したところであり、米粉の需要量が拡大。
- さらなる米粉の国内普及・輸出拡大に向けて、令和2年10月にノングルテン米粉の製造工程管理JASを制定し、令和3年6月から認証を開始。2事業者が認証を取得。

米粉用米の生産量・需要量の推移



ノングルテン米粉表示

- ◆ グルテンフリー表示は、グルテンが原因となる疾患対策として、欧米で制度化されている表示制度(グルテンの含有基準値20ppm)。
- ◆ 高品質な日本産米粉をアピールするため、グルテン含有量1ppm以下の製品を対象とした表示制度である、「ノングルテン米粉第三者認証制度」の運用を平成30年6月から開始。
- ◆ ノングルテン米粉を使用した加工食品を登録し、ノングルテン米粉使用マークを付与する仕組みを令和元年9月に開始。



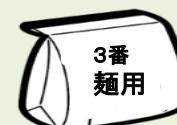
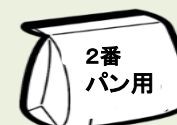
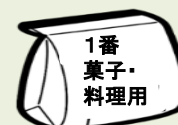
ノングルテン米粉の製造工程管理JAS

- ◆ 米粉の製造工程において、グルテンが混入する可能性のある箇所を特定し、グルテンの混入を防ぐことにより、製品のグルテン含有量が1ppm以下となるように製造工程を管理。
- ◆ ノングルテン米粉第三者認証制度による製品認証との二本柱により米粉の輸出や需要拡大に寄与。



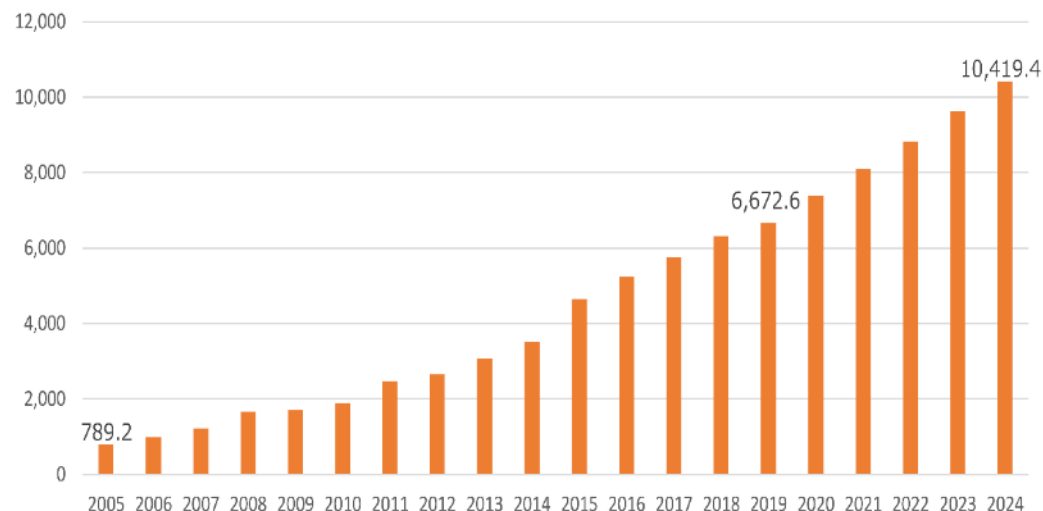
米粉の用途別基準

- ◆ 米粉の用途別の加工適正の統一表記(1番:菓子・料理用、2番:パン用、3番:麺用)を行う「米粉の用途別基準」を平成30年1月から開始。



世界のグルテンフリー市場規模

アメリカや欧州を中心に、
世界のグルテンフリー市場は順調に拡大しており、
2024年には約100億USDに達する見込み



図：世界のグルテンフリー市場

注：2020年以降は予測値
出所：Euromonitor Dataを基にJFOODOにて作図

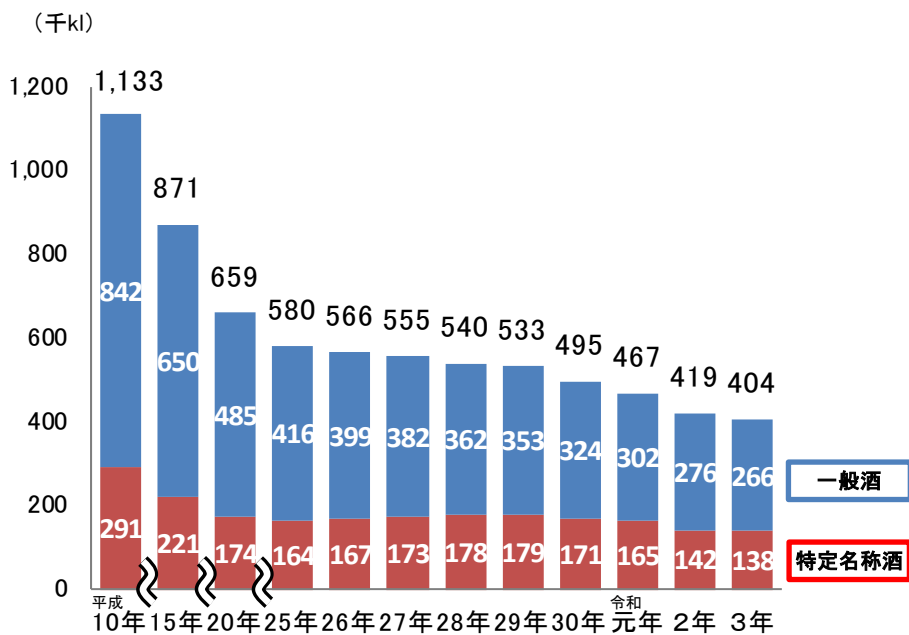
米粉によるグルテンフリー市場の 取り込みに向けて

- ◆ グルテンフリー市場は、麦類に含まれるグルテンによるアレルギー、セリアック病、グルテン過敏症、ダイエット等に対するニーズにより形成
- ◆ 米は成分としてグルテンを含んでいないため、近年、米粉やその米粉を利用した商品の製造に取り組むメーカーも増加
- ◆ 平成30年6月から、グルテンフリー表示よりも高い水準をクリアして、グルテン含有「1ppm以下」の米粉を「ノングルテン表示」でアピールする「ノングルテン米粉第三者認証制度」を開始
- ◆ また、令和2年10月には、更なる輸出拡大に向けて「ノングルテン米粉の製造工程管理JAS」を制定

日本酒の需要動向と原料米の使用量について

- 日本酒原料米の使用量については、日本酒出荷量の減少に伴い、減少傾向にある。
- 令和2年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、業務用の日本酒を中心に酒造好適米を多く使用する特定名称酒の国内出荷量が大幅に減少。輸出についても、大幅に減少。
- 令和3年は、国内出荷については、対前年比▲3%の出荷量となった一方、輸出については、アメリカ、中国等への輸出が好調で、対前年比+47%、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった一昨年と比較しても+29%と増加している。

○ 日本酒の国内出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。
注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量。
2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒、本醸造酒等に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

○ 日本酒原料米の使用量

(単位：千トン)

	平成10年産	15年産	20年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	令和元年産	2年産
日本酒原料米	405	315	261	243	248	251	241	240	227	206	180
酒造好適米	99	75	77	76	90	99	97	94	88	83	70
加工用米	86	89	74	95	105	94	93	88	90	85	63
その他	220	151	110	72	53	58	51	58	49	38	47

資料：農林水産省による推計値。

○ 日本酒の輸出量の推移

(単位：kl)

	10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	対前年比
日本酒輸出量	8	8	12	16	16	18	20	23	26	25	22	32	147%
アメリカ合衆国	1	2	4	4	4	5	5	6	6	6	5	9	167%
中華人民共和国	0	0	0	1	1	2	2	3	4	5	5	7	152%
香港	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	3	3	123%
台湾	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	117%
大韓民国	0	0	2	4	3	3	4	5	5	3	2	2	158%
その他	2	2	3	4	4	5	5	6	6	6	5	8	145%

資料：「貿易統計」(財務省)。年は暦年。

酒造好適米の需要に応じた生産について

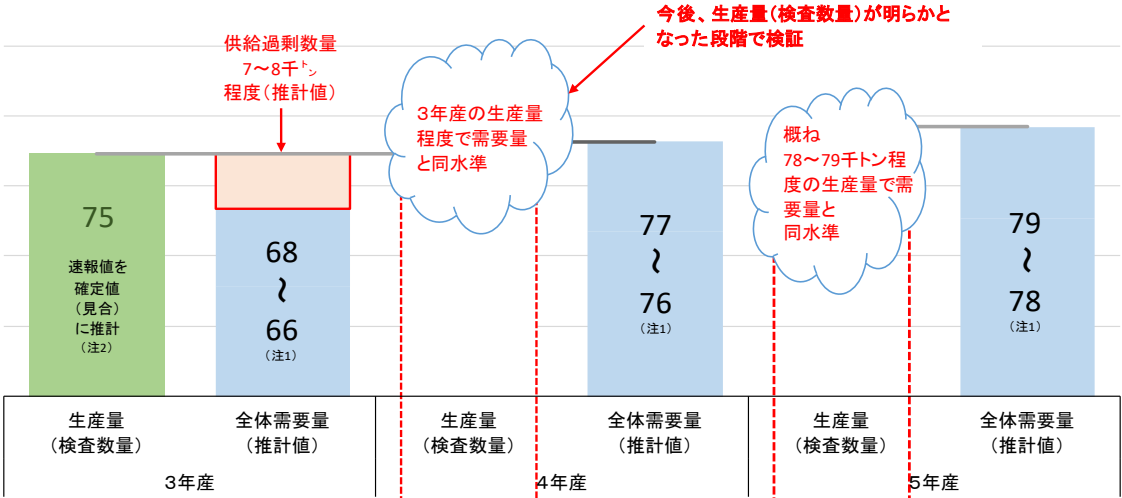
- 酒造好適米の需要に応じた生産に向けて、生産及び実需の関係者による「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を毎年開催するとともに、需要に応じた生産を行うための指標として、平成28年度から全酒造メーカーを対象とした酒造好適米の需要量調査を実施。
- 令和4年7月に実施した需要量調査によると、
 - ① 令和3年産については、全体需要量（推計値）と生産量を比較すると、7～8千トン程度が供給過剰となっているものと推計され、
 - ② 令和4年産については、全体需要量が令和3年産の生産量の+2千トン程度と増加している。
 - ③ 令和5年産については、全体需要量と同水準の生産量とするためには、78～79千トン程度の生産量とする必要があるが、在庫状況並びに令和4年産の生産及び需給動向によっては、令和5年産の生産量の調整が必要となることも考えられる。

調査の実施状況

	令和4年度
調査期間	令和4年7月
調査対象	酒造メーカー 1,389社
回答数	694社
回答率 (数量ベース)	82～84%

酒造好適米の全体需給状況の見通し（推計）

（単位：千トン）



⑤ コメの輸出・輸入

コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況

品 目 名		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年		(参考) 主な輸出先国	
							1～8月	対前年比		
コメ・コメ加工品	数量 (原料米換算)	28,685トン	32,226トン	35,531トン	36,569トン	45,959トン	34,265トン	+19%	香港 アメリカ 中国 台湾 シンガポール	
		金額	264億円	309億円	329億円	347億円	524億円	399億円		+25%
	コメ (援助米を除く)	数量	11,841トン	13,794トン	17,381トン	19,781トン	22,833トン	17,639トン	+26%	香港 シンガポール アメリカ 台湾 オーストラリア
		金額	32億円	38億円	46億円	53億円	59億円	44億円	+22%	
	米菓 (あられ・せんべい)	数量	3,849トン	4,053トン	4,033トン	4,222トン	5,141トン	2,800トン	-18%	アメリカ 台湾 香港 サウジアラビア シンガポール
		原料米換算	3,272トン	3,445トン	3,428トン	3,589トン	4,370トン	2,380トン	-18%	
		金額	42億円	44億円	43億円	45億円	56億円	33億円	-10%	
	日本酒 (清酒)	数量	23,482 ㌔リットル	25,747 ㌔リットル	24,928 ㌔リットル	21,761 ㌔リットル	32,052 ㌔リットル	24,131 ㌔リットル	+20%	中国 アメリカ 香港 シンガポール 韓国
		原料米換算	13,226トン	14,502トン	14,041トン	12,257トン	18,054トン	13,592トン	+20%	
		金額	187億円	222億円	234億円	241億円	402億円	316億円	+31%	
	パックご飯等	数量	658トン	923トン	1,018トン	1,205トン	1,129トン	922トン	+23%	アメリカ 香港 台湾 ベトナム 韓国
		原料米換算	346トン	485トン	535トン	634トン	594トン	484トン	+23%	
		金額	3億円	5億円	5億円	7億円	6億円	5億円	+30%	
	米粉及び米粉製品 (米粉麺等)	数量			118トン	249トン	88トン	138トン	+114%	アメリカ ドイツ タイ 台湾 イタリア
		原料米換算			146トン	308トン	108トン	170トン	+114%	
		金額			0.3億円	0.7億円	0.6億円	0.7億円	+84%	
コメ・パックご飯・米粉及び米粉製品	数量 (原料米換算)	12,187トン	14,279トン	18,062トン	20,723トン	23,535トン	18,293トン	+27%	香港 シンガポール アメリカ 台湾 オーストラリア	
	金額	35億円	42億円	52億円	60億円	66億円	50億円	+24%		

資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）

注1：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。パックご飯等は2017年より、米粉は2019年より、米粉麺等は2020年より貿易統計にて輸出実績を集計・公表。

注2：米粉及び米粉製品のうち米粉製品の原料米換算は米粉100%として推計。